

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都府中市幸町 2-13-29
園名	ぱる★キッズ府中

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感で感じ、生活へ広がる木育活動 ～身近な木との出会いからものづくり体験へ～

<②ヒノキのかんな節遊び>

<テーマの設定理由>

「ぱる★キッズ隊の探検隊」行事での木育活動にて木の表面の温度や感触の違いの気づきから、日々の散歩にて木の皮を集めて形や手触りを観察したり公園の切り株をみて皮のところと中にで色や観察の違いに気づいた。また、16種類のような木からできた積み木にふれ木には色々な匂いや表面、模様があることを知った。木の表面や中の様子を深めてきた子どもの姿から、かんな節と言う違った木の形態を展開してみた。(クリスマスプレゼントとしてヒノキのかんな節がとどく)

## 2. 活動スケジュール

①かんな節を1人1人に渡す。…1月

- ・0歳児：ギュッと握りしめたり両手で引っ張ったりと夢中になって感触を楽しむ。
- ・1、2歳以上児：匂いを嗅いだり、感触を確かめたり、くるくるとなったところをひっぱったり、ちぎったり、上から落としてみたりと楽しむ。

②広い場所にかえてタライいっぱいに入れたものを提供。…1月

- ・手いっぱいに抱えたり、投げたりして遊んだり、保育者が足に掛けたのをきっかりに布団のように体にかけて寝転ぶ姿も見られる。
- ・木の香りや温もりを感じながら、心地よさそうに過ごす。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ヒノキのかんな節（クリスマスプレゼントとして届いたもの）、タライ（大容量）、広い活動スペース

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

【ヒノキのかんな節あそび】…1月

クリスマスプレゼントとしてヒノキのかんな節が届き、0歳児・1～2歳児それぞれに手渡した。

感触・香り・形など自由に探索しながら、全身を使ったダイナミックな遊びへと発展した。

##### <活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【0歳児】

かんな節を手渡すと、ギュッと握りしめたり両手で引っ張ったりと、夢中になって感触を楽しんでいた。

【1・2歳児】

はじめは匂いをかいだり、くるくると巻かれた部分を伸ばしたり、引っ張ってちぎったりと、それぞれのやり方で香りや感触を確かめていた。

タライにたくさん出すと遊びがダイナミックになり、体にかけたり上に投げたりしながらキャーキャーと大盛り上がり。

保育者が足にかけてみせると子どもたちも真似をし、やがて寝転んで布団のように、体全体にかぶせて遊ぶ姿が見られた。

どの子も木の香りと温もりに包まれ、心地よさそうにゆったりと過ごしていた。

【活動の様子】別紙参照：活動報告書②③ 子どもたちの様子（ヒノキのかんな節と木のおもちゃ）.pdf

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

普段なかなか触れることのできないかんな節にふれ、「公園で見る木とは違うけれど、これも木なんだ」という新たな気づきが子どもたちに生まれていた。

ヒノキの香りに包まれながら自然と体がゆったりとしていく様子から、木の持つ温もりや香りが子どもたちに安らぎを与えていることが感じられた。

最初は個々に触ったり引っ張ったり匂いをかいだりしていた遊びが、タライを囲むことで友だちと関わり合いながらダイナミックに発展していった。かんな節という素材の面白さから子どもたち自身が様々な遊び方を発見し、最後はみんなで寝転がり床にくっつき合って布団のように楽しむ姿が印象的だった。